

株式新聞

The Kabushiki Shimbun

新興市場&ベンチャー

3版 2016年(平成28年)9月2日(金)

インフォコム、株価は回復基調

業績期待大

インフォコム(4348・JQ)はシステム構築やソフトウェア開発などITサービス事業を展開する。電子書籍をはじめとするネットビジネス事業が伸び、今3月期の第1四半期(4~6月)決算は堅調。下期以降には注力するヘルスケア事業も伸長する見通しで、通期の好業績期待は大きい。

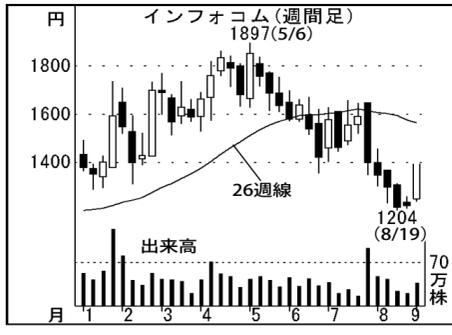
(梅村哲哉)

第1四半期の連結業績は売上高89億6000万円(前年同期比2.5%増)、営業利益1億6100万円(同5.1%増)だった。ヘルスケア事業、企業向けパッケージ製品販売は伸び悩んだものの、電子書籍サービスが引き続き好調に推移した。

同社の電子書籍配信サービス「めちャコミック」は前期から全国主要都市圏でテレビCMを放映していることもあり、認知度が向上している。それを前提とした販売戦略を進めた結果、四半期ベ

スの売上高は増加分が減少したものの、5月以降の月間売上高は14億円以上で推移している。第1四半期の売上高は41億円で四半期の過去最高を更新し、通期では180億円超を目標としている。

一方、次期成長事業として、この数年は病院向けシステムなど、ヘルスケア事業に注力中だ。病院向けシステムの販売強化に努めるとともに、新規開発にも取り組んでおり、7月にはIoT(モノ)のインターネット)を利用した認知症ケアソリューション「国際モダンホスピタル」に参考出展した。さらに、IoT関連事業にも力を入れ、漁業支援、オフィス環境整備など、IoTの幅広い活用を目指し、各種実証実験にも取り組んでいる。こうしたことが将来的な成長につながるかと期待されている。



電子書籍サービス拡大中

電子書籍事業の売上拡大に加えて、第4四半期(来年1~3月)には、ヘルスケア事業の売上増が見込めることから、通期業績は売上高450億円(前期比11.6%増)、営業利益50億円(同12.9%増)の見通しだ。ただ、通期業績が伸び悩む

株価は8月19日に年初来安値1204円を付け、その後安値圏の小動きが続いている。それが直近では上抜け、1400円近辺まで株価水準を上げてきた。ただ、今期予想PERは12倍程度で依然として割安感があり、当面は回復基調が見込めよう。

コード 6532・M 2日上場

ベikalent・コンサルティング

本紙予想 2000円

ベikalent・コンサルティングの初値は公開価格2100円を4.8%下回る2000円(今2月期予想PER12.3倍)と予想する。

総合コンサルティングファームで、戦略・ビジネスプロセスコンサルティング、ITコンサルティング、システムインテグレーションなどの事業を手掛ける。堅調実態の優良企業だが、市場からの吸収金額が280億円規模あり、新興市場上場案件としては荷もたれ感が強い。公開価格が収条件の下限で決まるなど、事前の人も低く、積極的に手掛けづらい状況となっている。(小泉健太)

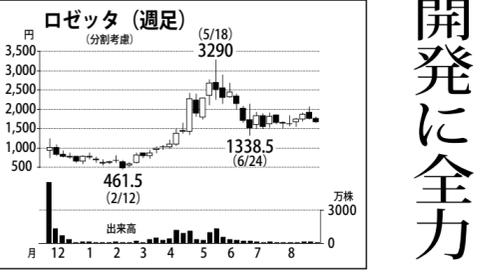
ロゼッタ(6182・M)はAI(人工知能)型機械翻訳ソフトウェアを活用し、自動翻訳サービスの開発、提供を手掛ける。自動翻訳の精度向上、翻訳サービスの提供に取り組み、足元の業績は好調。8月末には1対2株式分割を実施した。同社の現状と今後について五石順一社長に聞いた。



ロゼッタ 業績好調

「一方、翻訳サービスの需要は大きく、医薬品をはじめ学会、法務、製造業などあらゆる分野に及びます。今、人間の行う翻訳の市場規模は500億円程度ですが、将来的に機械に置き換わるとを想定しているのは事実ではあありません。膨大な学術論文など、現在は時間とコストが掛かり過ぎて手付けられない分野があり、より大きな市場が広がっています。自動翻訳の精度が向上すれば、それに伴い市場も拡大していくと思っています」

一定元の業績動向はかがやきか。



「今年2月期の業績予想は連結売上高17億7400万円(前期比6.4%増)、経常利益2億4100万円(同19.9%増)を見込んでいます。既存顧客への取引拡大のほか、Webサイトへの問い合わせ、イベントへの出席、営業活動を通じた新規顧客開拓を進め、収益は拡大中です。当面は20~30%の利益成長を目指しています」

「将来のビジョンを教えてください」

「15年11月19日のマザーズ上場時に自動翻訳の完成のメドは10年後と話しました。しかし、その後、自動

翻訳に人工知能(AI)、ディープラーニングを活用したところ、予想以上の効果が現れています。コンピュータの性能向上に加えて、進化し続けるAI、ディープラーニングを活用すれば、もっと早く自動翻訳の完成ができるかもしれません。当社では常に最先端技術を取り入れ、より迅速な開発に取り組んでいくつもりです」

「そのために、M&A(企業の合併・買収)も積極化していきます。8月9日は世界中のバイエルン人材を生かしたクラウドソーシングサービス「Connyva」を展開するエニド(非上場)の子会社化を発表しました。Connyvaによる世界中の人々の集合はAI育成に有効で、今後は人間がAIを育成し、AIが人間を支援するという共創関係が成立するでしょう。さらに、自動翻訳が完成した後は自動翻訳とクラウドソーシングの融合により、世界中で最もクオリティ、コストパフォーマンスの高い人材を選定して仕事を依頼できる「グローバルクラウドソーシング」の時代がやってく

自動翻訳の開発に全力

「一方、翻訳サービスの需要は大きく、医薬品をはじめ学会、法務、製造業などあらゆる分野に及びます。今、人間の行う翻訳の市場規模は500億円程度ですが、将来的に機械に置き換わるとを想定しているのは事実ではあありません。膨大な学術論文など、現在は時間とコストが掛かり過ぎて手付けられない分野があり、より大きな市場が広がっています。自動翻訳の精度が向上すれば、それに伴い市場も拡大していくと思っています」

一定元の業績動向はかがやきか。

新興市場 ランキング 1日		
JQ25日線カイ離率上位		
順位	銘柄	14時30分 14時30分
1	(3758) エーエス	39.17
2	(6266) タシラ	38.14
3	(6658) タシラ	36.55
4	(6327) 橋本	33.44
5	(2340) 橋本	29.17
6	(6140) 小田	26.43
7	(2719) 小田	25.83
8	(7185) ヒロセ	21.19
9	(7182) アスト	20.90
10	(9625) セレス	20.49
フル銘柄・マイナスイク		
1	(4736) 日本	-13.49
2	(7986) 日本	-12.44
3	(4281) ハビ	-11.36
4	(3895) ハビ	-11.21
5	(8933) 新	-11.04
6	(3370) アー	-9.89
7	(8769) アー	-9.88
8	(4837) シダ	-9.87
9	(6312) シダ	-9.51
10	(4595) ミス	-9.36
JQ 出来高急増上位		
順位	銘柄	14時30分
1	(1718) 美	4.50
2	(5987) オ	4.38
3	(2866) オ	4.28
4	(3758) エ	4.07
5	(6918) エ	3.73
6	(7826) フ	3.50
7	(5381) M	3.37
8	(6149) 小	3.17
9	(1907) 佐	3.06
10	(3768) リ	3.04
11	(4814) パ	2.62
12	(6898) ミ	2.54
13	(2778) パ	2.52
14	(9423) フ	2.47
15	(2480) 日	2.47
16	(7182) ア	2.45
17	(7519) 五	2.43
18	(7886) ヤ	2.43
19	(2484) ヤ	2.19
20	(6736) サ	2.19

マザーズ指数 4連騰

マザーズ指数が4日続伸。為替市場の円安進行を背景に東京市場全般が堅調に推移している。新興市場はテーマ株中心の物色ながら、投資マインド改善の恩恵を受けている。VR関連のカヤックが大幅続伸し、サイバダインも上昇。上場2日目のデファクトは売り優勢。ジャズダックではアストマクス、アエリア、フルヤ金属などが上昇した。

友化学(4005)の連結子会社になることを発表した。田中化研は住友化学に対して1050万株を新たに発行し、65億円を調達する。住友化学は田中化研の筆頭株主であり、直近1年間で14.81%を保有しているが、今回の増資によってその比率は50.1%まで高まる。自動車向けリチウムイオン電池の市場拡大が期待される中で、住友化学との関係強化で積極的な展開を行っていく方針だ。

一方、田中化研は足元の業績が赤字続きで財務諸表に継続企業の前提に関する疑義が注記されており、実態面への不安が大きかった。それも今回の増資で一気に解消されている。田中化研は電池関連の有力銘柄で値動きも派手だが、実態面が伴わずに株価は低迷していた。住友化学の子会社となることで信用面が補完され、株価にも評価余地が広がっている。

リボミック(459)がストップ高

抗MKアプタマーの特許取得

リボミック(459)がストップ高(1.1M)がストップ高。8月31日に、抗MK(ミッドカイン)アプタマーに関して、米国における物質特許査定を取得したと発表し好感された。抗MKアプタマーは「RBM001」として、大塚ホールディングス(4578)傘下の大塚製薬と共同研究を進めている。今回の特許は、MKの作用を阻害し、がん治療用途に適したアプタマーをカバするもの。「RBM001」に関する知的財産権の強化で将来的な寄与がありそうだ。株価は安値圏から浮上し、当面は堅調

友化学(4005)の連結子会社になることを発表した。田中化研は住友化学に対して1050万株を新たに発行し、65億円を調達する。住友化学は田中化研の筆頭株主であり、直近1年間で14.81%を保有しているが、今回の増資によってその比率は50.1%まで高まる。自動車向けリチウムイオン電池の市場拡大が期待される中で、住友化学との関係強化で積極的な展開を行っていく方針だ。

一方、田中化研は足元の業績が赤字続きで財務諸表に継続企業の前提に関する疑義が注記されており、実態面への不安が大きかった。それも今回の増資で一々に解消されている。田中化研は電池関連の有力銘柄で値動きも派手だが、実態面が伴わずに株価は低迷していた。住友化学の子会社となることで信用面が補完され、株価にも評価余地が広がっている。

9/1の動き

リボミック(459)がストップ高

抗MKアプタマーの特許取得

リボミック(459)がストップ高(1.1M)がストップ高。8月31日に、抗MK(ミッドカイン)アプタマーに関して、米国における物質特許査定を取得したと発表し好感された。抗MKアプタマーは「RBM001」として、大塚ホールディングス(4578)傘下の大塚製薬と共同研究を進めている。今回の特許は、MKの作用を阻害し、がん治療用途に適したアプタマーをカバするもの。「RBM001」に関する知的財産権の強化で将来的な寄与がありそうだ。株価は安値圏から浮上し、当面は堅調

ヘルイオス(4593・M)は日続伸。8月31日に、同社が開発を進める、脳梗塞(こうそく)急性期を対象とした体性幹細胞再生医療品「HLC0501」の臨床試験について、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)から、日本での臨床試験の承認(期間)は今年9月15日から10月31日まで公表された。ヘルイオスは今年9月15日、ヘルイオス(4593・M)が公表された。ヘルイオスは今年9月15日、ヘルイオス(4593・M)が公表された。

モーニングスター 公式 facebook ページを公開

『いいね!』でつながるフェイスブックページ

気の合う仲間と気になる情報をやりとり

ここでしか読めない金融情報やイベント告知も!

ぜひ「いいね!」ボタンをクリックして、「ファン登録」を!

モーニングスター公式フェイスブックページ <http://www.facebook.com/morningstarjp>

モーニングスター代表取締役社長 朝倉智也のフェイスブックページ <http://www.facebook.com/tomoyaasakura>

モーニングスター株式会社 〒106-6015 東京都港区六本木1-6-1 15階 <http://www.morningstar.co.jp/>